

R4第4回地域協議会<意見まとめ>

問：地域の宝である子供達に、地域の人たちがどのような活動を通して、関わるができるのか、厚田ならではの取り組みのアイデアなど、地域としてどんなふうに関われるか、「どんなことを子供たちにしてあげるか、するべきか」について、意見を伺った。

○東副会長

- ・以前ラジオ番組で、本州の村で高校生に何をやりたいかを聞き出し、その想いを大人が叶える取り組みをやっている地域が紹介されていた。
- ・9年生になったら願いが叶う、目標ができる、目に見える楽しみがあるのはすごく良い。
- ・子どもたちの願いを絶対叶えてあげる取組みがあったら面白いんじゃないか。

○小山委員

- ・昨年9年生が実施した「あつ旅」は、計画から実施、お見送りまで、最後は涙、涙、感極まっていた。
- ・若い時に頑張ったこのような体験は、今後の人生においても貴重な体験となるはず。
- ・これからも、厚田学園の中で子どもたちの自発的な企画にお手伝いしたい。

○加藤委員

- ・学園内で上半期の振り返りをしており、イベントが減少し面白くない一年と話が出た。
- ・コロナ禍がまん延している中、なかなかイベントが復活できずなくなるのではと不安。あの頃に少しずつ戻して行きたい。
- ・ふるさと学習で街中に子どもたちを連れて行くと、誰の子かわからないと良く言われる。子どもと地域の係りが薄くなってきていると感じる。
- ・どこかのまちで、子どもたちでの模擬選挙や、1日町長みたないな取り組みをしている町が増えている話を聞いた。自分たちの行動が大人を動かしているという達成感や大人も子供の活躍を見守っていることが出来る取組みが凄く素敵だと思う。こんな取組みが出来たらと思う。

○鎌田委員

- ・郷土愛の醸成と言う視点で発言をするが、昔、海から厚田を観る、田植え体験など、一次産業に関係する取り組みをしていたが、今は少なくなっていると思う。道の駅とのコラボも凄いいいと思うが、厚田は一次産業のまち、農漁の一次産業の係りを持って欲しいと思っている。
- ・以前は小さいながら厚田にスキー場があり、このスキー場で子どもたちは滑り方を覚え、高校のスキー授業で、厚田の子は皆上手に滑ることができたと聞いていた。スキー場の練習場の整備について、頑張りたい。

○村本委員

- ・厚田は子どもが少ないので、高校へ進学した時に思った事は、高校へ入学すると、人数は100倍、クラスも40~50人になり、活動の幅が広がり、都会はすごいと思った事を覚えている。
- ・人数が少なくても活動の濃さが大事だと思う。高校の活動より厚田の方が楽しいと思える

ような活動を増やしていければ良い。

○森田委員

- ・具体的な事は思いつかないが、私は十勝の鹿追町の出身。小学校は小さな学校に通い地域との係わりが少しあったが、中学校は少し大きな学校となり、地域との関りが全くなかった。
- ・今厚田学園に携わっているが、地域との係わりが多いと感じている。子どもの時の地域との係わりが思い出に残っているので、厚田でのいろんな活動は必ず子どもの心に残っているはず。大人になった時に、厚田を誇りに思えるようになると、いつも感じている。自分の体験からもこのことは強く感じる。
- ・CSでの地域と交流できる事を長く続けていけたらと思う。

○角野委員

- ・自分の子どもが厚田学園へ入学したが、クラスは2人で寂しく感じている。
- ・夏の期間ホームステイさせるなどの取り組みは出来ないか。他のまちの子どもたちを受入れ、厚田の子どもたちに刺激を与えることや、来た子供たちが厚田を知って好きになって、将来この体験がきっかけで厚田を選ぶことも考えられると思う。
- ・ホームステイにはいろんな障害があると思うが、角野家はいつでも受入れ可能です。

○飯塚隊員

- ・山村留学が良いなと思った。
- ・今、大学生を厚田へ連れて来て厚田の魅力を知って貰う取り組みをしており、そのきっかけで、朝市でバイトをしている学生もいる。
- ・自分に厚田学園で何が出来るかと考えたら、大学生を連れて行き、大学とはこんなところみたいな、ソクラテスミーティングのような大学生から話を聞くことができればと思う。

○奥本隊員

- ・これまで移住の事を調べていて、田舎での体験は良いと感じているようだが、中学に上がる頃には進学を意識し都会に戻っている傾向がある。コロナ禍でオンライン学習塾が充実してきているが、対面じゃないからモチベーション・やる気が続かないような気がしており、オンライン学習塾でわからない問題などを、実際に教えることも出来るのではと思っている。
- ・他の地域で部活は地域の人が教えていることを知り、これは良いと思う。部活で地域との係わりを持つことは地域も溶け込みやすいし、地域との繋がりも増えて行くと思う。

○八木沼支援員

- ・何が良かったかを思い返すと、管内のリーダー研修に参加し、知らない仲間と宿泊を共にし、意見の合わない人がいる中でどうまとめるかなど、今となってはあのころの体験が役に立っている。
- ・自分自身が主体的に取り組む事が大事だと思う。
- ・大人から何かしてあげることもあるし、子どもから教えてもらうこともあり、互いに学べる部分があると思う。地域の運動会で大人の本気を子どもたちに見せることも大事だと思う。

○岡山委員

- ・赴任してから考えていることがあり、少人数は弱みなのか。弱みではないと思っている。ストロングポイントが沢山ある。少ないが故に濃厚接触。陸上記録会、子どもたちは全種目参加、運動量は多いし幸せ。都会では学べない事が沢山ある。
- ・厚田学園は、水泳以外は出来ている。この授業は市教の指示でできていない。来年は水泳をやりたい。
- ・ウィークポイントもあり、それは道独の時間。道徳はいろんな考え方や価値観を知る機会であるが、9年生は2人しかいないので、多様な考えを受けられるようなことができないだろうか考えている。
- ・加藤委員は小希望の他校とオンラインで国語の授業を行っているので、こんなことをどんどん出来ればと思っている。
- ・みなさんの話を聞いて、社会教育と学校教育の二つの内容に整理しながら、今後進めていけたらいいと思う。学校教育の中でも出来そうなことがあると思う。(田植え、船から厚田を見る)
- ・少ない事が強みとなる様に取り組んでいけたらと思う。

○笹谷委員

- ・親として不安なことは、コミュニケーション能力、泥臭い人間関係というのは、環境の中で育つものだと思うので、何か体験することが出来ればといいと思う。少人数ならではの体験は、感心するほどしてると思っているので、この強みをもっと生かしていければと思う。
- ・コロナでもできる行事があればと思っている。コロナに負けない行事があればと思う。

○石田委員

- ・厚田学園へ親子で行けるイベントなどがあればいいと思う。
- ・卒業した子供が遊びに来てくれたり、子どもの時に多くイベントに関わり、大きになったら思い出してくれると思う。

○大内委員

- ・皆さんの話を聞いていて、共感していた。自分ができる事があれば、子どもたちのために参加したい。

○平賀委員

- ・朝市の入口の前で燻製を販売しているが、子どもたちが描いた大きな看板を背にして写真撮影をしている方が多い。八幡二さんの国道入口にある看板を見て朝市に来たという方もいて、子どもたちも地域に貢献していると感じている。

○渡邊会長

- ・子どもたちに良い思い出を、地域や親が作ってあげることが大事だと思う。
- ・子どもたちは宝。
- ・厚田学園の応援団になりたいと思う。